

■しずだい産学連携メールマガジンVol. 90

2015年6月16日発行 【毎月第3火曜日】

⇒静大イノベーション社会連携推進機構より、お知らせやイベント情報をお届けします。<http://www.oisc.shizuoka.ac.jp/>からもご覧頂けます。

★今月の「みんなのコラム」は、清水一男先生です。

◆◆◆ 目次 ◆◆◆

1. 「第9回ビジネスマッチングフェア in Hamamatsu 2015」に出展します
2. 「医工連携スタートアップ支援事業」募集案内

※問合せ先のアドレスは、スパムメール防止のため表記を一部変更しています。メール送信の際は[at]を@に変更してください。

---

1. 「第9回ビジネスマッチングフェア in Hamamatsu 2015」に出展します

静岡大学との産学連携をご検討の皆さま、ぜひこの機会に静大ブースにお立ち寄りください。コーディネーターがサポートいたします。  
静大発ベンチャー企業の紹介もします。

【日時】2015年7月22日（水）10：00～17：00  
7月23日（木）10：00～16：00

【会場】アクトシティ浜松 展示イベントホール  
（浜松市中区中央3-12-1）

【静岡大学の出展内容】

静岡大学の産学連携活動と大学発ベンチャー企業の紹介

【詳細】<http://www.hamamatsu-bmf.jp/>

【静岡大学の問合せ先】

イノベーション社会連携推進機構

TEL：053-478-1713

E-mail：sangakucd[at]cjr.shizuoka.ac.jp

---

2. 「医工連携スタートアップ支援事業」募集案内

はままつ次世代光・健康医療産業創出拠点では、医療ニーズ、医学シーズと、地域のものづくり企業の技術開発力との「医工連携」によるメディカルイノベーションの創出を推進し、健康医療産業を地域の基幹産業の一つにすることを目指しています。

医工連携の課題には、医療現場のニーズを解決しようとするもの、ものづくり企業の有する技術シーズを医療応用しようとするものなど、十分な市場性はみこまれるものの、技術的に実現可能かどうか不明であったり、実用性を示す具体的なデータがなかったりと、アイデア段階から先に進めない課題も少なくありません。

そこで、医療は介護の現場の課題やニーズを解決する新しい医工連携プロジェクトを推進するために、事業科可能性の高いアイデアを有する地域の中小企業に対して、本格的な研究開発のための公的資金や競争的資金の申請に向けた「アイデアの実現性の検証」を委託し、医工連携のスタートアップを図る本事業を実施します。

- ◆対象者  
静岡県内に主たる事務所、事業所又は住所を有する中小企業者
- ◆対象となる事業  
健康医療分野の課題やニーズの解決を目的とする新しい医工連携プロジェクトであって、1～6か月程度でアイデアの実現性の検証が完了するもの。
- ◆委託経費  
1議題あたり50万円以内
- ◆申込締切  
平成27年6月26日（金）17:00必着

※申請方法その他詳細につきましては、お問い合わせいただくか、ホームページをご覧ください。

はままつ次世代光・健康医療産業創出拠点\*

(はままつ医工連携拠点) 拠点事務局 花井 幸代

〒431-3192 静岡県浜松市東区半田山1-20-1  
浜松医科大学 産学官共同研究センターPET-CT棟2F  
TEL/FAX: 053-435-2438

<http://www.ikollabo.jp>

～ものづくり技術と医療・医学との融合による地域イノベーションの創出～  
平成27年度医工連携スタートアップ支援事業 公募中！！

《 みんなのコラム -84- 》

記：イノベーション社会連携推進機構 准教授 清水 一男

最近の科学技術の動向や大学の環境は激変していると言って良いでしょう。振り返ると昨年の科学技術界にも様々な出来事がありました。日本人研究者によるノーベル物理学賞受賞はプラズマとは分野は違うものの大変に喜ばしく、ともすれば応用研究に偏りがちな昨今の情勢に一石を投じたもの、ともいえるでしょうか。

特に名古屋大学の天野教授は、大学院生時代から長い間、芽の出ない研究で実験の失敗が千回を超えたとの事です。その間は、相当程度にプレッシャーもあり、大変だったと想像されますが、それを糧にしての成果というのは本当に素晴らしいものだと思います。また長期間にわたりそれを支えた大学という場を抜きにしては語れない事だとも思います。しかしその大学での研究環境も、そして大学自身も大きく変わろうとしています（あるいは一部では既に大きく変わっている）。

他方で、昨今の若手研究者らは任期制のポジションに付くことで、どうしても短い期間での成果が求められます。さっそうと現れた若手研究者によるSTAP細胞の存在は、もはや幻となりました。長期間に渡る研究成果としての青色LEDの成功と反して、短期間ですい星のように現れたSTAP細胞というのは、現代の科学技術の光と影なのかもしれません。

私達は大学の立場からの産学連携を推進していきますが、昨今の産学連携やそれに関連する競争的資金は、その成果を極めて短期間に要求するものが多くなってきています。その結果、大学では本当に大切な基礎研究と（主に予算の関係で）数年程度で短期的な成果の求められる応用分野の狭間で、今後も悩み、またその時々々の国の施策により翻弄される部分もあるのでしょうか。しかしながら長期間にわたる研究によってもたらされる成果と、比較的、短期間で出口を見据えた応用研究の在り方を、今一度、考え直す岐路に立っている様に思います。

私自身が答えを持っている訳ではありませんが、若手研究者の皆さん方には、自身のおかれた環境の中で、他分野の研究動向も勉強しながら、あせらずに研究テーマを考えてもらえたらと思います。また先生方は論文の出ない期間こそが、若手研究者を育てている大切な期間だということ（様々に制約はあろうかと

